

令和2年3月30日

令和元年度学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会報告書

学校法人常松学園札幌工科専門学校
学校関係者評価委員会
教育課程編成委員会

議題

令和元年度 学校の取り組み及び改善計画

1. 開催日時 令和2年3月7日(土) 10:00～12:00

2. 場 所 札幌工科専門学校 第2校舎 会議室

3. 学校関係者評価委員

常松 哲	理事長
伊藤 幸一	理事
前田 寛之	一般社団法人北海道環境保全技術協会 顧問(業界関係者)
奥内 尚史	一般社団法人札幌造園協会 理事長(業界関係者)
下原 英一	(株)イーエス総合研究所 常務執行役員業務企画部長(企業等委員)
小林 勝美	緑化デザイン(株) 代表取締役社長(企業等委員)
古城 学	常松学園札幌工科専門学校同窓会長
松本 勲	モエレ町内会員
三上 敬司	校長
阿部 峰雄	環境土木工学科長
岩瀬 聡	造園緑地科長
大坂 道明	環境土木・造園施工管理科長

4. 教育課程編成委員

常松 哲	理事長
伊藤 幸一	理事
前田 寛之	一般社団法人北海道環境保全技術協会 顧問(業界関係者)
奥内 尚史	一般社団法人札幌造園協会 理事長(業界関係者)
小林 勝美	緑化デザイン(株) 代表取締役社長(企業等委員)
伊藤 朋喜	(株)イーエス総合研究所 常務執行役員事業本部副本部長 第二事業部長(企業等委員)
三上 敬司	校長
阿部 峰雄	環境土木工学科長
岩瀬 聡	造園緑地科長
大坂 道明	環境土木・造園施工管理科長

学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会資料

令和元年度自己評価表及びカリキュラム表

令和元年度 学校の取り組み状況教育課程編成に関する報告

I 教育理念・目標

<課題> (教育理念・目標 ②、③、④)

教育活動の基礎である教育理念・目標が学校と学生および保護者と共有されず教育活動の指針として生かされていない。

<報告>

- 1 教育理念に基づく教育目標の設定と徹底
- 2 教育目標に基づいた教育内容と教育目標を実践するための体制

- 1 教育理念に基づく教育目標の設定と徹底

- 1) 教育理念

【少人数制による親切・丁寧な分かり易い・わかるまでの教育】

学生が自立すること、社会と調和して暮らせることを教育の目的とする。「分る、できる」体験を通して自信を育み、忍耐強く学習活動に取り組む中で、周りの人々と豊かな人間関係を構築することにより確かな信頼感を築き、社会に向かう勇気を育むことを教育理念とする。

- 2) 教育目標

- 基礎学力の向上を図る。
- 基礎的な専門知識と技術の習得
- 素直な心と良き社会人になるためのマナーの涵養

「分る、できる」ことを実感し自信をつける教育により、学生自身の自ら学ぶ意欲を引き出すことで、基礎学力や専門知識を習得させ、資格取得者や公務員一次試験の合格者を産みだすことを目指す。また、信頼感を養い社会に向かう気持ちを育て、結果、企業や公務員採用試験の採用を目指す。

3) 教育理念・目標の徹底

- ① 教職員が自立心と社会と調和する教育理念を共有するために、教育計画の作成、実施、結果が出た時や問題があった時など、会議のみならず普段から話ができる関係づくりを教職員の目標とする。
- ② 教育計画書の充実と活用。
- ③ 学生募集時から入学希望者、保護者、進路指導教員、企業関係者への理解を図る。
- ④ ガイダンス、ホームルーム、教科指導時にも学生と確認する。
- ⑤ 教職員教育研修を計画的に行う。

様々な機会を使い、教職員は教育理念・目標を再認識し、より多くの人と共有することを目標とする。

2 教育目標に基づいた教育内容と教育目標を実践するための体制

1) 教育内容

環境土木工学科は、従来通り土木施工管理及び測量士の指導を中心にし、公務員コースと民間コースを作り、希望者を分けて教育する。公務員コースの学生はさらに教養を深める。資格取得指導の中で有能感を育て、自信を養う。就職指導において教養と社会人におけるマナーを養う。

造園緑地科は、主に造園施工管理と造園・園芸装飾技能に学習内容を絞り、加えて土木施工、林業、樹木医を共通で学ぶ。さらに、発展として測量士補、ビオトープ管理士、生物分類検定、技術士補を受験希望者に個別指導する。2年次より林業公務員コースを作り、林業公務員と民間希望者と分けて教育を行う。コース分けによって、学生がより主体的に取り組めるようにする。

2) 教育体制とカリキュラム

忍耐強く教育に取り組むためには、カリキュラム外の個別指導の時間も設定する必要がある。教員の指導時間を確保するために、授業時間数の適正化が必要になる。そのために、総カリキュラム数を削減し、土木、造園緑地、測量科、施工管理科の全科で、教養科目以外の専門科目においても共通科目を設定し、教員の効率的な配置を行い、協働体制を作る。

内容

- ①週 20 時限（1 時限 90 分、4 時限/1 日、5 日/週 9：00～16：00）にし、5 コマ目（16：00～17：50）は個別指導を行えるよう総カリキュラムを削減する。環境土木工学科は、107 単位（3,210 単位時間）から 96 単位（2,880 単位時間）、造園緑地科は 109 単位（3270 単位時間）から 94 単位（2,820 単位時間）に削減。
- ②学科間で共通科目を設置する。
- ③学科を超えた担当教員を配置し担当教科の平準化により、学科を超え、教科を超えて学校業務の相互に協力体制を取り、多様な業務への参画を図る。
- ④選択必修科目により公務員、民間コースを設置し、より効率的な進路指導を行う。
- ⑤シンプルなカリキュラムとし、学校全職員の相互理解を促進する。
- ⑥（株イーエス総合研究所より紀本先生と IT 管理科の鈴木先生（情報処理担当）および新任で一色先生（土木施工担当）の 3 名が増える。服部先生（地図編集、測量、森林土木担当）が非常勤となる。

評価委員の意見

・令和元年度札幌工科専門学校自己評価結果 X 教育活動全体及び学生の実態について、昨年度と比較して良かった点・悪かった点の冒頭において、「合同授業が多く、大人数による弊害？欠席・居眠り・私語が増加しているのではないか。」と記されている。このことを踏まえ、学生や保護者からクレームを付けられる前に、本校の教育理念におけるキーワードの一つである少人数制を直ちにホームページや印刷物から削除するか表現を変更するとともに教育理念・目標を早急に見直すべきである。（前田）

・皆木先生担当教科を紀本先生と藤永先生で引き継ぐ方向で検討していただきたい。紀本先生に関しては、イーエス総研業務のウェイトが多くなる。藤永先生に関しては、お客様より学校中心で良いとの意見である。（下原）

・教育理念・目標が、学校、学生、保護者と共有されていないとの課題があるが、今回示されている方針を確実に実施し、社会全体への理解されるように活動していただくことが必要と思います。（伊藤朋）

Ⅱ 学校運営

<課題> (Ⅱ 学校運営①、②)

経営方針の共通理解が図られ教育活動に反映されていない。学校運営が協働体制のもと、円滑に図られていない。

<報告>

現状の教職員で学生定員を確保し、安定的な学校運営をすることを学校運営の経営方針とする。特に、造園緑地科は入学者が定員を下回っていることから、カリキュラムを含めた体制の合理化を図り、他学科を含めた協働体制をつくることで教育理念・目標が実践され、満足度の高い教育を提供できるようにする。さらに、求める学生像を明らかにして、入学希望者が受験しやすい入試制度を導入する。

1 教育理念・目標の共有

カリキュラム変更を行い教務・総務に教員を配置し、全員で校務にあたるようにする。

2 カリキュラム変更

前項参照 別紙試料

3 入試改革

造園緑地科

1) A0 入試及び推薦入学生の導入

造園緑地科の求める人材像は、専門分野への興味と学習意欲を持ち、将来専門分野の業界への就職を希望する熱心な学生である。そのような学生を念頭に置き、本校の教育理念・目標を実践できるようにカリキュラム編成を含め教育体制と入試制度の変更を行う。本校の一般入試は10月から始まり、数学と作文及び面接を行っている。しかし、A0入試制度は時期の縛りがなく大学、短大は7月までに概ね合否を決定されている。多くの大学、短大においてA0入試による入学生の割合は半数近くに上がり、今後、その割合がますます高まると予想されている。造園緑地科では、目的意識を持った学生を確保するため、より広く本校を受験できるよう体制を整えたいと考えA0入試及び推薦入試を導入することとする。

2) 理想とする学生像 造園緑地科 アドミッションポリシー

- 造園緑地分野に興味を持ち、その分野に就職する意識を明確に持っている人。
- 造園緑地の専門知識・技術・技能の習得に忍耐強く取り組むことができる人。
- 他人を尊重し、協力して職務をやりとげようとする人。

にかなう学生を積極的に募集する。

評価委員の意見

- ・カリキュラムの変更と入試改革によって学校運営上の効果が期待されるが、本当に定員を確保できると良いのですが。(前田)
- ・造園緑地科と環境土木の統合検討必要では。(下原)
- ・特に造園緑地科の入学定員を割っているとのことですが、対象年度の卒業予定者以外の学年もターゲットとして活動することも必要と思います。(伊藤朋)

Ⅲ 教育活動

<課題> (Ⅲ教育活動②、③、⑤、⑥、⑧、⑭、⑰)

効果的な教育課程編成及び実施が行われていない。マナー指導や社会性を身に付けさせる指導が不十分。人材確保及び育成に課題。

<報告>

業務の効率化が求められる中で、現カリキュラムでは教員の適正配置が困難になったことと、入学生の質の変化により、教育理念・目標を実現することが難しい状況であった。そこで、前項までの報告と同様に以下のことについて再検討し、現在の教職員体制で教育理念・目標を実践し、より満足度の高い教育を行えるような体制の構築をおこなう。

- 1 教育理念・目標 年度教育方針の確認と共有。
- 2 教育理念・目標に基づくカリキュラムの編成。
- 3 教職員の意識向上のための行動。
- 4 教育理念・目標を具現化する教育活動。
- 5 モラル、ルールの再確認と信頼関係の構築

評価委員の意見

- ・ マナーや社会性に関する指導は、反した行動を見た時、すべての先生がその都度、その場面で指導する。教員間の情報共有。(伊藤幸)
- ・ 専任教員を増やし、特に女性教員を採用するとより良い。非常勤教員にも博士号を持つ女性を採用するとより良い。(前田)
- ・ マナー指導や社会性を身に着けさせる指導が不十分とあるが、専任の教員を確保し継続的に改善していくしかないと思います。(伊藤朋)

IV 学修成果

<課題> (IV学習成果①③)

基礎学力の向上および社会人マナーの涵養が十分に行われていない。

<報告>

中小企業を中心とした建設業、造園業、林業及び国そして北海道などの公務員採用はいまだ売り手市場で、本校の卒業生もほぼ希望通りの就職をしている。また、2級施工管理技士の学科試験も年2回受験できるなど受験機会が拡大され、以前に比べると就職や資格試験受験のハードルが下がったと考えられる。現在、就職及び資格取得などの成果が上がっているが、その過程で基礎学力の向上や社会人になるためのマナーなどの教育目標を十分に達成したとは言い難い。教職員自身の社会性や企業から求められる人材像などに対する意識向上が重要である。前項までと同様に、教育目標・理念及び目標の理解とそれに基づく教育活動がなされるよう、様々な機会を計画的に設け、常に共有されるよう活動を行う。

1 退学及び休学者（令和2年3月3日現在）

[退学]

- ・ 環境土木工学科1年 1名（病気）
- ・ 環境土木工学科2年 1名（無断欠席・進路変更）
- ・ 環境土木・造園施工管理科 環境土木コース 1名（進路変更）

[休学]

- ・ 環境土木工学科1年 1名（病気）
- ・ 測量情報科 1名（病気）

2 資格取得及び就職状況

[資格]

- ・測量士補 1名合格
- ・2級造園技能士 4名合格 (100%)
- ・2級園芸装飾技能士 3名合格 (100%)
- ・3級造園技能士 5名合格 (100%)
- ・3級園芸装飾技能士 5名合格 (100%)
- ・ブロック建築3級技能検定 2名合格 (100%)
- ・2級土木施工管理技士 (学科) 前期 2名合格 後期 21名合格
- ・2級造園施工管理技士 (学科) 後期 7名合格
- ・2級管工事施工管理技士 (学科) 後期 4名合格
- ・生物分類技能検定3級 1名合格
- ・2級ビオトープ施工管理士 1名合格

[就職]

- ・国家公務員 (一般・大卒) 技術北海道 最終合格 1名
- ・ " " 林業 最終合格 1名
- ・ " (一般・高卒) 技術北海道 最終合格 12名 (内、1年生1名)
- ・ " " 林業 最終合格 2名
- ・ " " 農業土木 最終合格 1名
- ・陸上自衛隊 (技官) 最終合格 1名
- ・北海道職員 (総合土木B) 最終合格 12名 (内、1年生1名)
- ・ " (林業) 最終合格 3名 (内、1年生1名)
- ・青森県 1次合格 1名
- ・札幌市 (短大の部) 土木 最終合格 1名
- ・北見市 土木 最終合格 1名
- ・民間企業 5名内定

3 技能五輪全国大会

- ・「造園」職種に1名出場 (令和元年11月14日～18日 愛知県)

評価委員の意見

- ・資格、就職に関する成果は上がっている。社会人マナーについては前項同様。(伊藤幸)
- ・資格取得と就職状況が素晴らしい。(前田)
- ・本校への学生募集活動での女性の公務員チャンスをアピールしてほしい(一次官庁より要望)。(下原)
- ・資格取得は100%であり、今後も継続して維持できるように指導することが望まれます。(伊藤朋)

学生支援

<課題> (V学生支援⑨⑩⑪⑫)

学内及び学外また一般の方への教育支援及びボランティア活動は、担当教科内や担任など個別に活動を行っているものも一部あるが、学科や学校全体として組織的に活動している内容はまだ少ない。

<報告>

1 学科を超えた学生への対応

学生の多様な希望(公務員大卒程度受験、他分野受験(造園緑地科の土木施工管理技士受験、公務員「農業土木区分」受験、技術士補試験指導等)に込えている。

2 外部への対応

国家資格取得についての外部の希望には込えられていないが、北海道職員の技術研修を行っている。

3 社会人への経済的支援

国の修学支援新制度対象校に認定

4 課外活動の単位化

今後、市域社会への働きかけを組織的行えるよう意識を高めていく。

評価委員の意見

- ・ 正課を充実させることが基本であることは言うまでもない。その上でそれ以外の活動は個別（学科別）ではなく学校として活動することが望ましい。（伊藤幸）
- ・ マナー指導では、誰にでもできるボランティア活動として歩道周辺のごみ拾いを年に数回ではなく、月に数回行い、習慣にすると良い。（前田）
- ・ 教員の人数にも限りがあると思いますが、積極的にボランティア活動を行っていく必要があると思います。（伊藤朋）

VI 教育環境

<課題> (VI教育環境①②⑦)

学科ごとの入学者数に極端にばらつきが生じ、従来のカリキュラムでは教室や実験室などの利用がスムーズにいかないことが多くなっている。結果、きめ細やかな教育を行うのに支障が見られた。また、防災用具の購入により体制は整備しつつあるが、実際に使えるようにするための訓練等の実施の必要性が求められた。

<報告>

1 物品の整備

ノートパソコンや測量器具など実習時に必要不可欠な機材の数を購入し、対応した。

2 カリキュラム変更

教室、機材、教員を合理的に使えるようカリキュラムの共通化、整理統合、削減を行う。

3 カリキュラムの適正化により校舎内外の管理の充実

校舎内外の設備のメンテナンスを行い常に最大限に使えるように整備しておく。

評価委員の意見

- ・社会のニーズを捉え、柔軟に対応する。「今まで通り」が通用しなくなっている。(伊藤幸)
- ・防災グッズはどんな物ですか。(前田)
- ・防災用具を購入されたとのことですが、年に1度は実際の訓練の実施も重要と思います。(伊藤朋)

Ⅶ 学生の受け入れ募集

<課題> (Ⅶ学生の受け入れ募集①～③)

大学への高い進学率が続く中、専門学校への進学者は学習意欲、基礎学力の低下が顕著な学生も少なくはなく、技術者の育成を目標とする、本校の求める学生像と乖離する入学生が増えている。特に、造園緑地科の入学生は減少している。

<報告>

学校の教育理念に立ち返り、自信をつけさせ社会に調和をする心を養う教育を行う体制をもう一度構築し、一人ひとりに合わせた教育を行い、国家資格取得や高い公務員合格率、就職率と経済面の利点など大学にはない価値を高校生中心に強く打ち出し、大学進学希望者を引き込みたい。そのために教育課程の見直し、入試選抜方法の検討を行い。教職員による積極的な広報をおこなう。

1 利用しやすい入学試験を目指し、AO入試、推薦入学の導入(造園緑地科)

本校の求める人材を的確に確保する。

2 業界との連携

- ・学校の体験入学のほか、造園緑地科で現場体験実習を実施し、学校内容を紹介する。

3 ホームページ及び高校での広報

- ・学科教員が週一日広報活動を行えるようカリキュラムを編成し、高校訪問を行う。
- ・ホームページのスマホ対応やリニューアルを予定している。

4 広い分野のカリキュラム

- ・学生の希望に応じた関係分野への対応ができるカリキュラム作成。

5 教育目標の設定及びカリキュラムの改編（別紙）

- ・広報活動を戦略的に行うためにも、学生教育目標と求める学生像を再度明確化する。

評価委員の意見

- ・今後、一般学生が益々集まらない可能性が高く、企業委託生を主な対象とする学科の統合も検討するべきである。（前田）
- ・建設系の魅力を前面にアピールして、業界全体で学生を育成していく必要があると思います。（伊藤朋）

VIII 財務

<報告>

本校の収入のほとんどが、教職員の人件費となっている。人件費の支払いを賄うための学生数は90人である。設備等大きな買い物は、会社の寄付となる。以上のことを念頭に、持続的な学校運営を行う。

評価委員の意見

- ・私学は基本的に収益団体であり、サービス業である。収益を上げる為に、学生の確保、サービス向上、経費の削減を常々考えていかなければならない。（伊藤幸）
- ・若々しい専任教員、特に女性の専任教員を採用するため、人件費を確保するべきである。（前田）
- ・持続的に運営するために、会社への依存を減少させていく必要もあります。（伊藤朋）

Ⅸ 法令等の遵守

〈報告〉

概ね妥当である。

評価委員の意見

・令和元年度札幌工科専門学校自己評価結果Ⅸ法令等の遵守の所見において「いかなる理由があれ虚偽の報告はいかななものか」と記載があるが、学校法人としてあってはならないことであり、本校の体質を改善しなければならない。(前田)